

平成28年度～平成30年度 文部科学省委託

「幼児教育の推進体制構築事業」

北九州市版幼児教育と小学校教育の 接続カリキュラム



平成30年8月

北九州市教育委員会 子ども家庭局

はじめに

平成29年3月、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、及び小学校学習指導要領が告示されました。これまで以上に保育所（園）、幼稚園、認定こども園等の教育・保育施設と小学校の連携（以下、「保幼小連携」という）強化や、連続性と一貫性をもった幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の重要性が示されています。

そのような中、本市では、平成17年度より保幼小連携推進の取組として、保幼小連携推進連絡協議会の設置、保幼小連携研修会の実施、保幼小連携担当者の分掌への位置付け等を行ってきました。さらに、平成28年度からの3ヵ年、文部科学省より「幼児教育の推進体制構築事業」に係る研究委託を受け、本市の就学前教育の充実を図るとともに小学校への円滑な接続を図るため、「幼児教育の推進体制構築事業モデル小学校区」を指定し、学びの連続性のある保育・教育活動の実践を積み重ねてきました。また、幼児教育推進員及び幼児教育アドバイザーによる保育所（園）、幼稚園、認定こども園、小学校の訪問を実施し、幼児教育の更なる質の充実及び幼児教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に対する実践的な研究を進めてきました。

そこで、保育所（園）、幼稚園、認定こども園と小学校が求められている役割や目的を踏まえ、発達と学びの連続性及び一貫性を確保した体系的な教育・保育を円滑に行うために「北九州市版幼児教育と小学校教育の接続カリキュラム」を作成し、連携・交流のポイントをまとめました。

本書では、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が行われるように、5歳児10月～小学校1年生7月に着目し、①接続前期（5歳児10月～12月）、②接続中期—1（5歳児1月～3月）、③接続中期—2（小学校1年生4月～5月初めの大型連休前）、④接続後期（小学校1年生5月初めの大型連休後～7月）の4期を接続期として設定し、8つの構成要素を組み込んだ接続カリキュラムの作成を試み、実践した24の事例を掲載しています。

このカリキュラムが、教職員の幼児教育と小学校教育の相互理解を進め、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続と幼児教育及び小学校教育の充実に向けたカリキュラム・マネジメントの一助として、積極的に活用されることを願っています。

平成30年8月

北九州市教育委員会

北九州市子ども家庭局

新しい時代の教育と北九州市の歩み

鳴門教育大学 教職大学院
教授 木下光二

新しい局面

新しい学習指導要領等の改訂において幼児期から児童期はもとより、中学校や高等学校まで共通する3つの資質・能力（知識・技能，思考力・判断力・表現力，学びに向かう力・人間性等）の育成や教育課程の連続性などが求められています。その際、幼児期の遊びの中の学びを児童期の教科等の学びにつなげることが鍵となりますが、遊びの中の学びを捉えることはそれほど簡単なことではありません。幼児期の遊びの中の学びを言語化し、明確化したり可視化したりして伝えることが必要となります。今回の改訂で出された“幼児期の終わりまでに育ってほしい姿”は1つの手掛かりとなり、北九州市が作成された本接続カリキュラムも有意味なものとなるでしょう。

何をつなげれば？

幼児期から児童期に何をつなげればよいかを考えることがあります。つなげるのかつながるのか、子どもの発達や成長を考える際、行きつ戻りつするものの、児童期につながらないものは何一つないと思います。幼小の間にあるとされる段差や壁、溝などは、これまでの組織やシステムがつくってきたものなのでしょう。研修会や研究会の場で何をつなげればよいかを尋ねてみると、「心情」「自主性」「思いやり」「人間関係」「個性」「協同性」「基本的な生活習慣」「コミュニケーション力」等、様々な答えが返ってきます。いずれも大切なことばかりです。その際、私はいつも、「遊び込むこと」と答えるようにしています。いわゆる、対象に自ら働きかけ、試行錯誤をしながら夢中になって遊ぶ、没頭して遊ぶ、時間を忘れて遊べる幼児は、児童期での教科の学習にも主体的に関わることができると思うのです。幼児期に砂場で夢中になって遊んだり、草花や虫に豊かに関わったりなど、遊びを多様に展開できる幼児は、児童期になって生活科や理科の学習にすっと移れるでしょう。絵本や童話などが好きで物語や空想の世界で想像やイメージを広げたり、相手の気持ちに寄りそって話したりできる幼児は、自然と国語の学習に入れるでしょう。また、積み木などのものを、分けたり、並べたり、数えたり、比べたり、積み上げたりするのが得意な幼児や、数量や図形に興味を示し、買い物ごっこや折り紙などで時間を忘れて遊べる幼児は、算数の学習に滑らかに移行できるでしょう。

連携から接続へ

つなげるためには、保幼小が共に歩み寄り同じ速さで歩くこと、いわゆる教師間の連携や子ども間の交流活動、カリキュラムの連続が求められます。それはそのまま改訂のキーワードであるカリキュラム・マネジメントであり、両者の生き生きとした活動は、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）となります。それはこれまで北九州市が長年にわたって取り組まれてきた歩みそのものだと思います。これまで、北九州市の幼児教育や連携教育に関わらせてもらい、私自身もたくさんのことを学ばせてもらいました。北九州市がこれまで積み上げてこられたことを生かし、新しい時代の新しい教育を創ってもらえたらと思います。

目 次

北九州市版幼児教育と小学校教育の接続カリキュラム

○ はじめに

○ 新しい時代の教育と北九州市の歩み

鳴門教育大学 教職大学院 教授 木下 光二

1 育成を目指す「資質・能力」の明確化	1
2 幼児教育と小学校教育との円滑な接続の重視	2
3 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	3
4 本市の強みを生かした幼児教育の推進体制構築事業	5
5 接続カリキュラムの考え方	7

モデル小学校区における実践事例

接続前期 (5歳児10月～12月) 事例 1～事例 8	17～32
接続中期—1 (5歳児 1月～ 3月) 事例 9～事例18	33～52
接続中期—2 (1年生 4月～ GW) 事例19～事例21	53～58
接続後期 (1年生 GW～ 7月) 事例22～事例24	59～64

○ 研究組織

○ おわりに